

日タイの「マイペンライ」理解の比較に見る言語行動の特徴について

著者	堀江 インカピロム・プリヤー
雑誌名	言語の対照研究
ページ	21-38
発行年	1997-12-19
シリーズ	国立国語研究所研究発表会 ； 平成9年度
URL	http://doi.org/10.15084/00002925

日タイの「マイペンライ」理解の比較に見る 言語行動の特徴について

日本語教育センター第三研究室
堀江 インカピロム・ブリヤー

1. 研究の目的

従来、タイ人の言語行動を特徴づける言葉として「マイペンライ」を挙げる人は多かったが、それについて、調査研究をする者はほとんどいなかった。そして、「マイペンライ」は、日本人にとって、一般的に、「気にしない」「構わない」等と解釈されてきた。この解釈に沿ってタイ人の「マイペンライ」に接するとき、不快感を覚えたり、怒ったりすることがしばしばあることは、多少なりともタイ人と接したことのある日本人なら知っていることであろう。

しかし、タイ人に言わせると、「マイペンライ」とは、たいへんに美しく、優しい言葉だということになる。

例えば、タイに滞在する日本人から、よく聞くのは、「メイドさんが、私の大切なコーヒーカップを割ってしまった。もし、メイドさんが謝ったら、『マイペンライ』（気にしないでいいのよ）」と声をかけて慰めてあげようと思ったのに、メイドさんの方が『マイペンライ』と言ったので、本当に腹が立った。これでは話が逆ではないか」といった不服である。

果たして、メイドさんは、どんなつもりで「マイペンライ」と言ったのであろうか。本当に、「気にしない」という意味で使ったのであろうか。

また、例えば、タイの日系企業で、日本人社員から部下のタイ人が、会議の前にコピーを作るように頼まれたが、うっかり忘れてしまった。タイ人社員が、「マイペンライ。すぐにコピーを取りますから」と答えたら、日本人の上司は非常に怒ってしまった。タイ人社員は、なぜ、そんなに怒られなければならないのか、まったく理解できなかった、といった話もよく耳にする。

どうやら、日タイの人々の間で、「マイペンライ」についての理解や解釈に相違があるのでは

ないだろうか。この理解の差によって、日タイの人々の間で、摩擦が起きることになると考えられはしないか。

そこで、日タイの人々の間のこのような理解の相違が、いったい何に起因し、また、それがどのような行き違いを引き起こしているのかを明らかにすることによって、日タイの人々の間のコミュニケーション上の障害の一つを解消する手がかりを見つけられるのではないかと考えた。

これが明らかになれば、タイ人のための日本語教授法の改善にも応用できるし、日タイ間のコミュニケーション・ギャップを多少とも解消することにも役に立つに違いない。そして、この研究を、より発展させれば、さらに、日タイ間の経済、技術、学術、教育等の分野においても応用できると考えて、この調査研究を開始し、進めているところである。

2. 研究の方法

国立国語研究所報告 111「日本語とタイ語の対照研究Ⅱ『マイペンライ』－タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その 1－」(堀江、1995)において、それまでの調査結果の一部を発表したように、先行研究が皆無といってよい状態であったため、"A Preliminary Investigation of Thai and Japanese Formulaic Expressions"(堀江、1985)において、「マイペンライ」の使い方を6種類に分類したものを基礎として、さらに、タイのさまざまな小説中に使われた「マイペンライ」を参考にしながら、1985-88年にタイにおいて収集した「マイペンライ」の実例について、バンコク在住のタイ人38人にインタビューを行った。また、このインタビュー結果を検討し、さらに詳しいアンケートを実施し、310人から回答を得た。これらの調査結果をまとめたのが、上述の報告である。

その後、タイ人に対するインタビューのデータが必ずしも十分ではなかったもので、それを補う意味で、同様の事例につき、タイ在住のタイ人にもアンケートを実施し、318人から回答を得た。さらに、同様の事例につき、タイに滞在中の日本人にアンケートを実施し、376人から回答を得た。加えて、バンコクとチェンマイに滞在中の日本人59人にインタビューを実施した。

本日の発表は、その中間報告の一部である。

回答者データ（タイ人及び日本人）

実例アンケート（タイ人 318 人：女性 197 人、男性 113 人、
日本人 376 人：女性 231 人、男性 139 人、不明 6 人）

*年齢

タイ人

人

	女性	男性	不明	計
①10代	21	18	0	39
②20代	81	55	0	136
③30代	42	14	0	56
④40代	35	14	0	49
⑤50代	7	5	0	12
⑥60代	2	1	0	3
⑦無回答	9	6	8	23
計	197	113	8	318

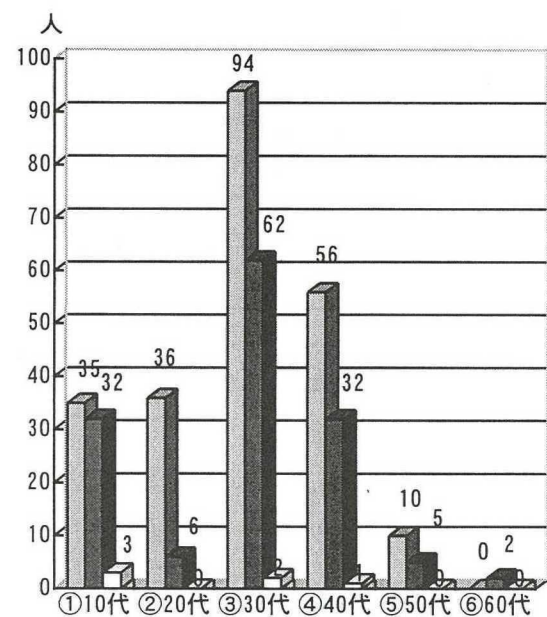
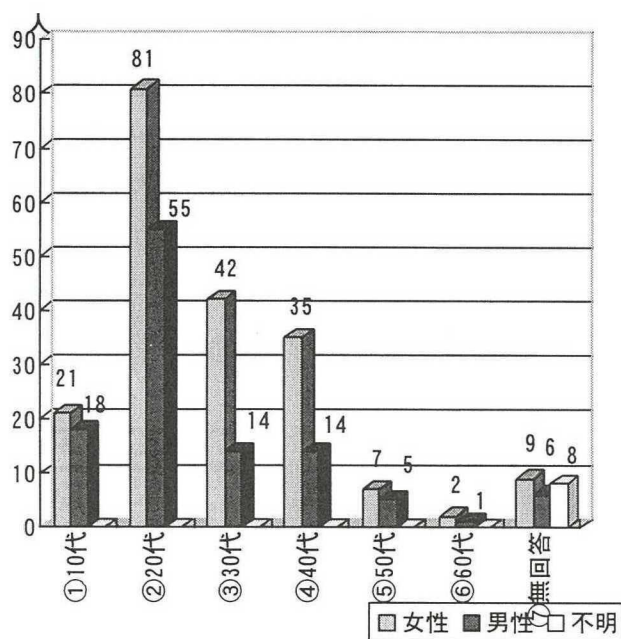
日本人

人

	女性	男性	不明	計
①10代	35	32	3	70
②20代	36	6	0	42
③30代	94	62	2	158
④40代	56	32	1	89
⑤50代	10	5	0	15
⑥60代	0	2	0	2
計	231	139	6	376

タイ人

日本人



*職業（アンケート）

タイ人

人

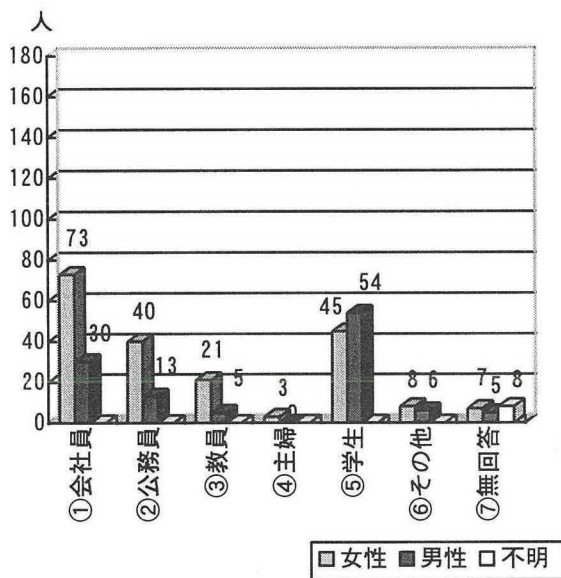
	女性	男性	不明	計
①会社員	73	30	0	103
②公務員	40	13	0	53
③教員	21	5	0	26
④主婦	3	0	0	3
⑤学生	45	54	0	99
⑥その他	8	6	0	14
⑦無回答	7	5	8	20
計	197	113	8	318

日本人

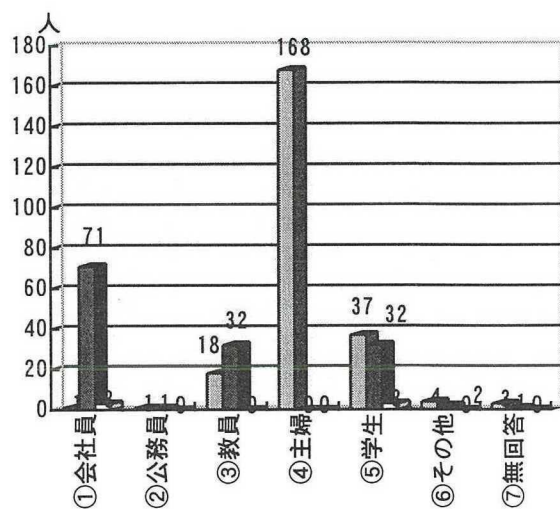
人

	女性	男性	不明	計
①会社員	1	71	3	75
②公務員	1	1	0	2
③教員	17	32	0	49
④主婦	168	0	0	168
⑤学生	37	32	3	72
⑥その他	4	2	0	6
⑦無回答	3	1	0	4
計	231	139	6	376

タイ人



日本人



3. タイに滞在中の日本人及びタイに在住のタイ人へのアンケートとインタビュー

3.1. アンケート結果の分析

実例 9. 「デパートの店員とお客」

お客 「このワイシャツ、袖口のところがちょっと汚れているけれど……。」

店員 「おそらく、ほこりだと思いますけど……。少したたけば取れると思います。」

(たたいても取れないので、店員は洗剤をつけてブラシで洗い、アイロンをかける。店員は出来上がったシャツをお客に見せる。お客は、さっきよりきれいになったが、まだなんとなくしみがついているので、友達にプレゼントするにはちょっと気になっている。しかし、店員が一生懸命きれいにしてくれたので、どうしようか迷っている。)

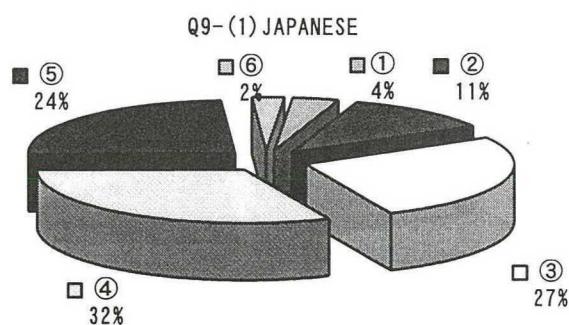
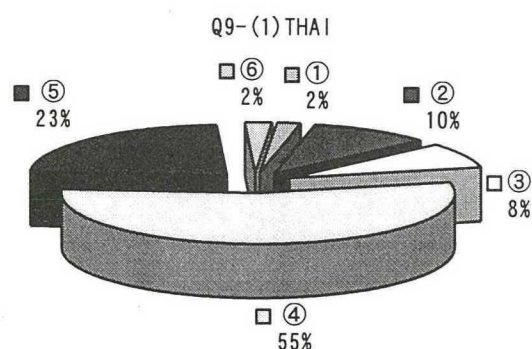
お客 「(遠慮がちに) あのう、まだ、ちょっと汚れが……。」

店員 「マイペンライ。このくらいの汚れなら見えませんよ。洗えばすぐに取れてしまいます。」

実例 9-(1) この店員の対応の仕方について、どう思いますか。

タイ人	人
①非常に適切	6
②適切	32
③どちらともいえない	26
④やや不適切	174
⑤非常に不適切	73
⑥無回答・その他	7
計	318

日本人	人
①非常に適切	14
②適切	43
③どちらともいえない	101
④やや不適切	118
⑤非常に不適切	91
⑥無回答・その他	9
計	376



アンケート結果の分析

実例9「デパートの店員とお客」

実例 9-(1) 「この店員の対応の仕方について、どう思いますか」

	タイ人	日本人
肯定的	12%	15%
否定的	78%	56%
どちらともいえない	8%	27%
無回答・その他	2%	2%

実例 9-(1)の「この店員の対応の仕方について、どう思いますか」という質問に対するアンケート結果からいえることは、否定的な回答をした者の中で、「非常に不適切」と答えた者は、タイ人 23%、日本人 24%と似たような傾向を示したということである。また、否定的な回答をした者の割合はタイ人の方が日本人より多かった。さらに、「どちらともいえない」と回答した日本人は、タイ人に比べて3倍以上いた。

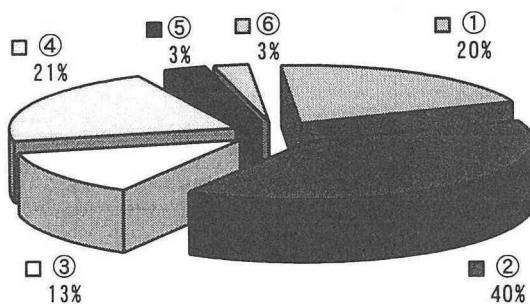
9-(2) この店員の対応の仕方は、失礼だと思いますか。

タイ人 人 日本人 人

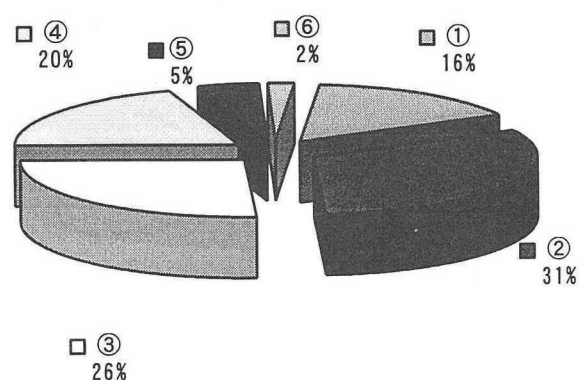
①非常に失礼	65
②やや失礼	126
③どちらともいえない	41
④失礼ではない	68
⑤全く失礼ではない	10
⑥無回答・その他	8
計	318

①非常に失礼	61
②やや失礼	119
③どちらともいえない	97
④失礼ではない	75
⑤全く失礼ではない	17
⑥無回答・その他	7
計	376

Q9-(2) THAI



Q9-(2) JAPANESE



実例 9-(2) 「この店員の対応の仕方は、失礼だと思いますか」

	タイ人	日本人
肯定的	24%	25%
否定的	60%	47%
どちらともいえない	13%	26%
無回答・その他	3%	2%

実例 9-(2)の「この店員の対応の仕方は、失礼だと思いますか」という質問に対する回答の結果は、否定的な回答をした者の中で、「非常に失礼」と答えた者は、タイ人 20%、日本人 16%、「やや失礼」と答えた者は、タイ人 40%、日本人 31%であった。また、肯定的な回答をした者の割合は、タイ人は 24%、日本人は 25%と、ほぼ同じ割合であった。さらに、「どちらともいえない」と回答した日本人の比率は、タイ人に比べて 2 倍であった。

実例 9-(3) この店員の責任感について、どう思いますか。

タイ人

人

日本人

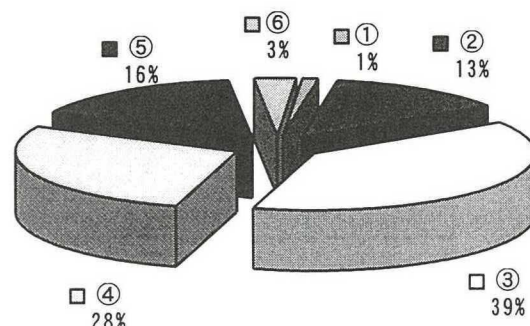
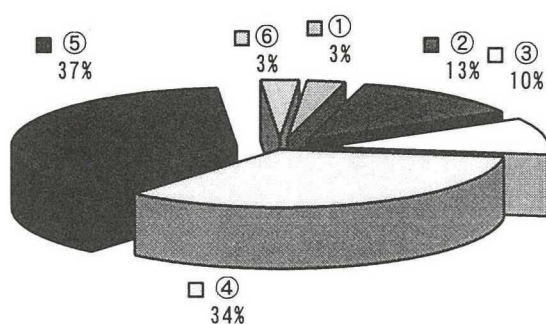
人

①非常に責任感が強い	9
②責任感がある	40
③どちらともいえない	32
④やや無責任	109
⑤非常に無責任	119
⑥無回答・その他	9
計	318

①非常に責任感が強い	4
②責任感がある	50
③どちらともいえない	146
④やや無責任	104
⑤非常に無責任	60
⑥無回答・その他	12
計	376

Q9-(3) THAI

Q9-(3) JAPANESE



実例 9-(3) 「この店員の責任感について、どう思いますか」

	タイ人	日本人
肯定的	16%	14%
否定的	71%	44%
どちらともいえない	10%	39%
無回答・その他	3%	3%

実例 9-(3)の「この店員の責任感について、どう思いますか」という質問に対するアンケート結果からいえることは、肯定的な回答をした者の中で、「非常に責任感が強い」と答えた者は、タイ人 3%、日本人 1%、「責任感がある」タイ人、日本人共に 13%と、たいへんに近い数字を示したということである。一方、否定的な回答をした者の中で「非常に無責任」と答えた者は 37%、日本人は 16%であった。さらに、「どちらともいえない」と回答した日本人は、タイ人に比べてほぼ 4 倍いた。全体で見ると、タイ人は、日本人に比べて、このような対応に対して非常に厳しい見方をしているデータであるといえる。

実例 9 への回答全体で見ると、タイ人と日本人は比較的似たような傾向を示しているが、日本人の回答者には「どちらともいえない」と答える者が目立った。

実例 10「交通事故」

車と車が接触事故を起こした。ぶつけた人とぶつけられた人は、すぐに車から降りて接触個所を見て、損害の程度を調べにかかった。

ぶつけた人 「マイペンライ。バンパーがへこんだだけだから、何でもない。キズも何もなかったよ。」

(ぶつけられた人は、自分の車の被害の程度を真剣に調べたが、ぶつけた人の言うとおりであった。)

ぶつけられた人 「もう少し注意してくれよ。バンパーだけだったからよかったけど。」

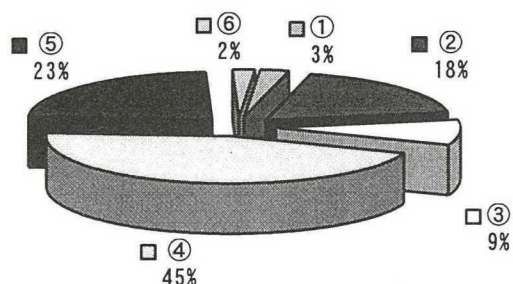
ぶつけた人 「……。」

実例 10-(1) このぶつけた人の対応の仕方について、どう思いますか。

タイ人 人

①非常に適切	8
②適切	58
③どちらともいえない	28
④やや不適切	144
⑤非常に不適切	74
⑥無回答・その他	6
計	318

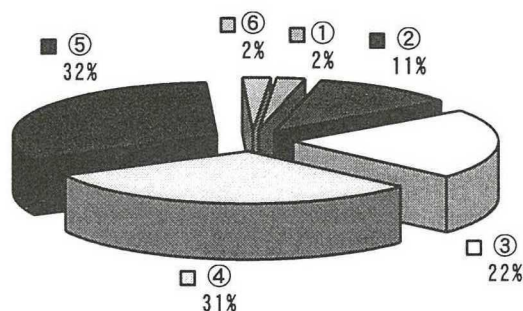
Q10-(1) THAI



日本人 人

①非常に適切	8
②適切	43
③どちらともいえない	82
④やや不適切	116
⑤非常に不適切	119
⑥その他	8
計	376

Q10-(1) JAPANESE



実例 10-(1) 「このぶつけた人の対応の仕方について、どう思いますか」

	タイ人	日本人
肯定的	21%	13%
否定的	68%	63%
どちらともいえない	9%	22%
無回答・その他	2%	2%

実例 10-(1)の「このぶつけた人の対応の仕方について、どう思いますか」という質問に対するアンケート結果では、否定的な回答をした者の中で、「非常に不適切」と答えた者は、タイ人 23%、日本人 32%、「やや不適切」と答えた者は、タイ人 45%、日本人 31%であった。また、肯定的な回答をした者の割合はタイ人の方が日本人の 2 倍近かった。さらに、「どちらともいえない」と回答した日本人は、タイ人に比べて 2 倍以上いた。全体で見ると、否定的な回答をした者の割合は、タイ人も日本人もそれほど差がないといえるが、タイ人の中には肯定的見方をする者が、日本人よりかなり多かった。

10-(2) このぶつけた人の対応の仕方は、失礼だと思いますか。

タイ人

人

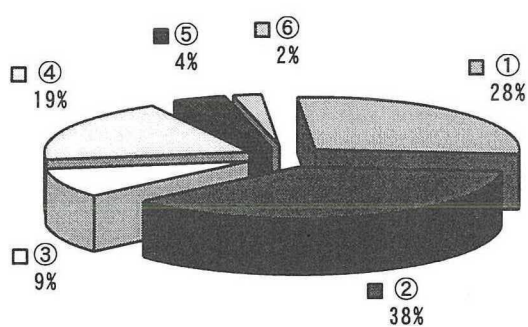
日本人

人

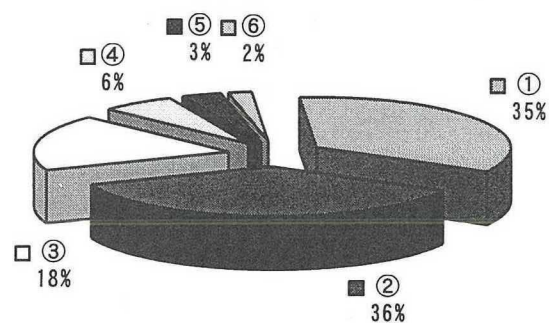
①非常に失礼	88
②やや失礼	119
③どちらともいえない	29
④失礼ではない	62
⑤全く失礼ではない	13
⑥無回答・その他	7
計	318

①非常に失礼	130
②やや失礼	135
③どちらともいえない	68
④失礼ではない	23
⑤全く失礼ではない	13
⑥無回答・その他	7
計	376

Q10-(2) THAI



Q10-(2) JAPANESE



実例 10-(2) 「このぶつけた人の対応の仕方は、失礼だと思いますか」

	タイ人	日本人
肯定的	23%	9%
否定的	66%	71%
どちらともいえない	9%	18%
無回答・その他	2%	2%

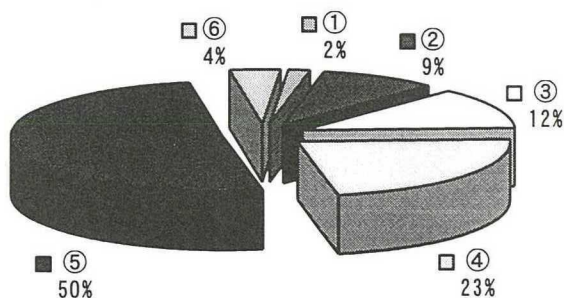
実例 10-(2)の「このぶつけた人の対応の仕方は、失礼だと思いますか」という質問に対して、否定的な回答をした者の中で、「非常に失礼」と答えた者は、タイ人 28%、日本人 35%、「やや失礼」と答えた者は、タイ人 38%、日本人 36%であった。また、肯定的な回答をした者の中で「全く失礼ではない」と答えた者は、タイ人も日本人も同じ比率であったが、「失礼ではない」と答えた者は、タイ人 19%、日本人 6%と、タイ人のほうが日本人の3倍以上いた。さらに、「どちらともいえない」と回答した日本人は、タイ人の2倍いた。全体で見ると、この実例 10-(2)の、ぶつけた人の対応の仕方については、タイ人のほうが日本人より、肯定的に見る傾向がうかがわれる。

実例 10-(3) ぶつけた人の責任感について、どう思いますか。

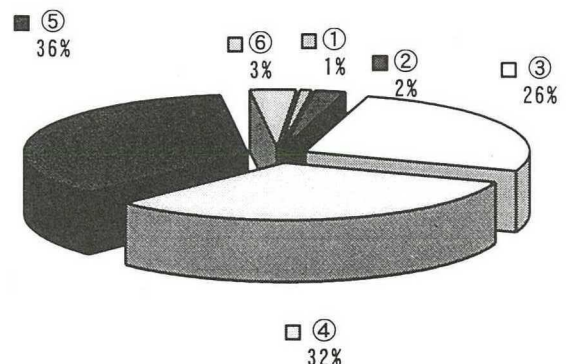
タイ人	人
①非常に責任感が強い	5
②責任感がある	29
③どちらともいえない	38
④やや無責任	73
⑤非常に無責任	161
⑥無回答・その他	12
計	318

日本人	人
①非常に責任感が強い	3
②責任感がある	9
③どちらともいえない	98
④やや無責任	120
⑤非常に無責任	133
⑥無回答・その他	13
計	376

Q10-(3) THAI



Q10-(3) JAPANESE



実例 10-(3) 「ぶつけた人の責任感について、どう思いますか」

	タイ人	日本人
肯定的	11%	3%
否定的	73%	68%
どちらともいえない	12%	26%
無回答・その他	4%	3%

実例 10-(3)の「ぶつけた人の責任感について、どう思いますか」という質問に対するアンケート結果では、否定的な回答をした者の中で、「非常に無責任」と答えた者は、タイ人 50%、日本人 36%、「やや無責任」と答えた者は、タイ人 23%、日本人 32%であった。また、肯定的な回答をした者の割合はタイ人の方が日本人の 4 倍近く多かった。さらに、「どちらともいえない」と回答した日本人は、タイ人に比べて 2 倍以上いた。全体で見ると、実例 10-(2)と同様、否定的な回答をした者の割合は、タイ人と日本人とではそれほど差がないといえるが、タイ人の中には、ぶつけた人の責任感について肯定的な見方をする者が、日本人よりかなり多かった。

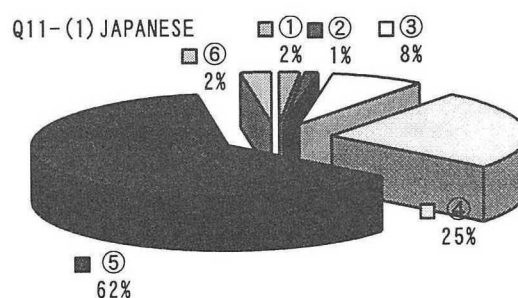
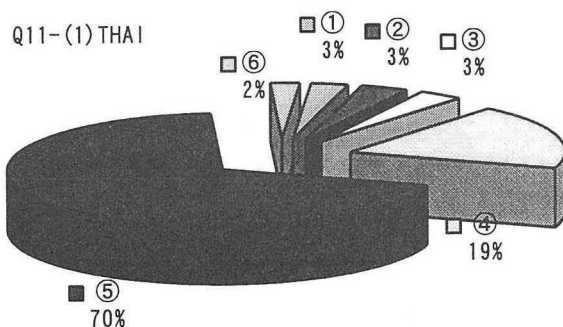
実例 11「シンポジウムの依頼」

ある大学の教授がシンポジウムでの講演を依頼された。送られてきたシンポジウムのプログラムを見ると、自分の講演すべきセッションに他の講演者の名前が載っていて、自分の名前は見当たらなかった。そこで、先輩であるシンポジウムの責任者に怒って抗議すると、そのセッションには、プログラムに記載されている講演者と自分の、二人が依頼されていたことが初めてわかった。しかし、その責任者は、「マイペンライ。こんな事は、大したことはないから。」と言った。

11-(1) このシンポジウムの責任者の対応の仕方について、どう思いますか。

タイ人	人
①非常に適切	9
②適切	11
③どちらともいえない	11
④やや不適切	60
⑤非常に不適切	220
⑥無回答・その他	7
計	318

日本人	人
①非常に適切	6
②適切	4
③どちらともいえない	30
④やや不適切	95
⑤非常に不適切	232
⑥無回答・その他	9
計	376



実例 11-(1) 「このシンポジウムの責任者の対応の仕方について、どう思いますか」

	タイ人	日本人
肯定的	6%	3%
否定的	89%	87%
どちらともいえない	3%	6%
無回答・その他	2%	2%

実例 11-(1)の「このシンポジウムの責任者の対応の仕方について、どう思いますか」という質問に対するアンケート結果では、タイ人、日本人共に否定的な回答をした者が圧倒的に多かった。その中で、「非常に不適切」と答えた者は、タイ人 70%、日本人 62%、「やや不適切」と答えた者は、タイ人 19%、日本人 25%であった。また、「どちらともいえない」と回答した者の割合は、タイ人、日本人共に少なかった。全体で見ると、否定的な回答をした者が、タイ人も日本人もたいへん多かったといえる。

11-(2) このシンポジウムの責任者の対応の仕方は、失礼だと思いますか。

タイ人

人

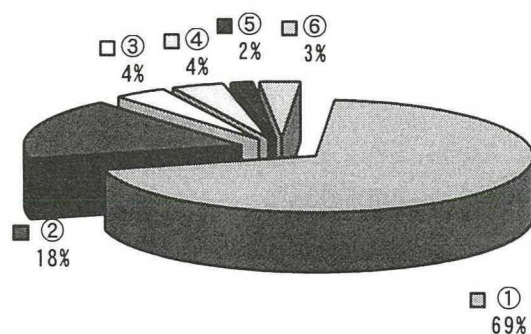
日本人

人

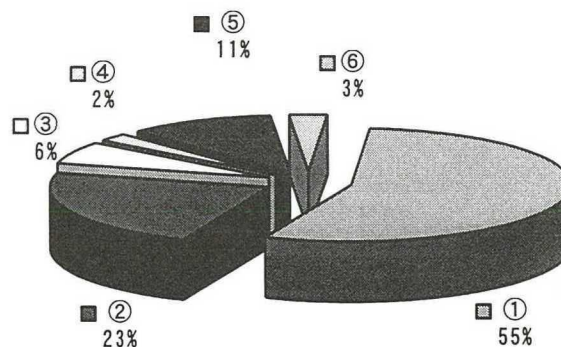
①非常に失礼	222
②やや失礼	56
③どちらともいえない	13
④失礼ではない	12
⑤全く失礼ではない	5
⑥無回答・その他	10
計	318

①非常に失礼	207
②やや失礼	85
③どちらともいえない	24
④失礼ではない	9
⑤全く失礼ではない	41
⑥無回答・その他	10
計	376

Q11-(2) THAI



Q11-(2) JAPANESE



実例 11-(2) 「このシンポジウムの責任者の対応の仕方は、失礼だと思いますか」

	タイ人	日本人
肯定的	6%	13%
否定的	87%	78%
どちらともいえない	4%	7%
無回答・その他	3%	3%

実例 11-(2)の「このシンポジウムの責任者の対応の仕方は、失礼だと思いますか」という質問に対して、否定的な回答をした者の中で、「非常に失礼」と答えた者は、タイ人 69%、日本人 55%、「やや失礼」と答えた者は、タイ人 18%、日本人 23%であった。また、肯定的な回答をした者の割合はタイ人より日本人のほうが多かった。さらに、「どちらともいえない」と回答した日本人は、タイ人に比べて 2 倍近くいた。全体で見ると、否定的な回答をした者の割合は、タイ人も日本人もそれほど大きな差はないといえるが、日本人の中には肯定的見方をする者が、タイ人より多かった。

11-(3) このシンポジウムの責任者の責任感について、どう思いますか。

タイ人

人

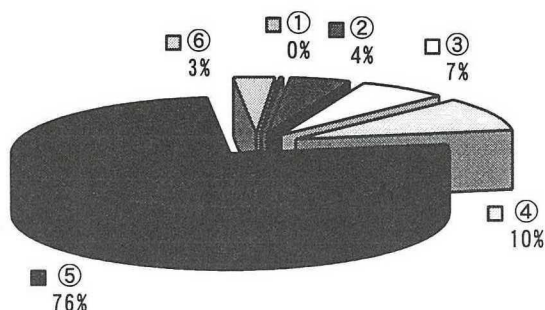
日本人

人

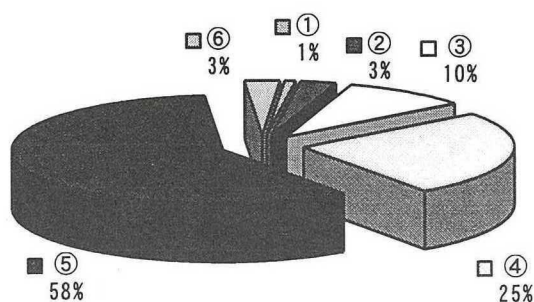
①非常に責任感が強い	1
②責任感がある	14
③どちらともいえない	21
④やや無責任	31
⑤非常に無責任	241
⑥無回答・その他	10
計	318

①非常に責任感が強い	3
②責任感がある	11
③どちらともいえない	36
④やや無責任	96
⑤非常に無責任	220
⑥無回答・その他	10
計	376

Q11-(3) THAI



Q11-(3) JAPANESE



実例 11-(3) 「このシンポジウムの責任者の責任感について、どう思いますか」

	タイ人	日本人
肯定的	4%	4%
否定的	86%	83%
どちらともいえない	7%	10%
無回答・その他	3%	3%

実例 11-(3)の「このシンポジウムの責任者の責任感について、どう思いますか」という質問に対するアンケート結果では、「非常に無責任」と答えた者は、タイ人 76%、日本人 58%、「やや無責任」は、タイ人 10%、日本人 25%であった。また、「どちらともいえない」と回答した者の割合はタイ人、日本人ともほぼ同数で、共に少なかった。全体で見ると、否定的な回答をした者が、タイ人も日本人もたいへん多く、タイ人、日本人共に、ほぼ同様の回答をしたといえる。

実例 11 に対する回答全体を通していえることは、どの面を見ても否定的な回答が多かったといえる。また、タイ人と日本人とでは、かなり共通した見方をしているように思われる。

2. インタビュー事例 回答者 (タイ人 女性 22 名、男性 16 名、計 38 名)

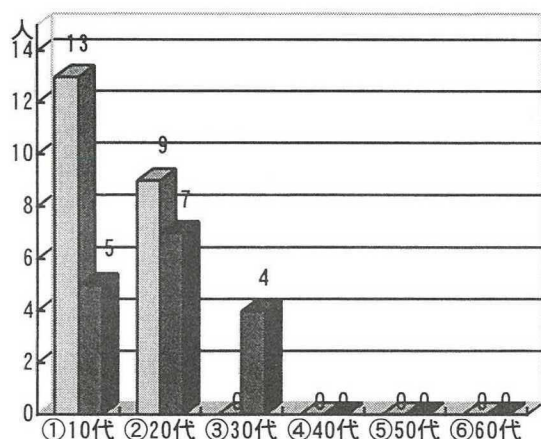
(日本人 女性 32 名、男性 27 名、計 59 名)

*年齢 タイ人 人 日本人 人

	女性	男性	計
①10代	13	5	18
②20代	9	7	16
③30代	0	4	4
④40代	0	0	0
⑤50代	0	0	0
⑥60代	0	0	0
計	22	16	38

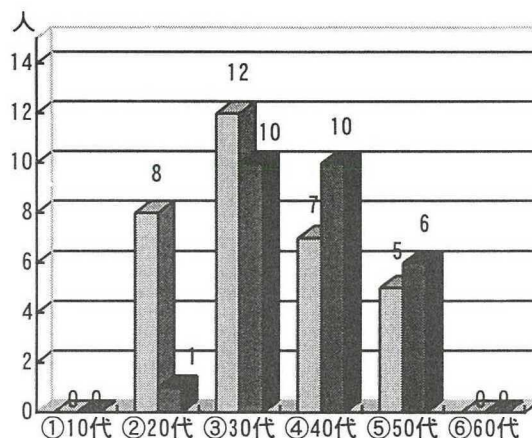
	女性	男性	計
①10代	0	0	0
②20代	8	1	9
③30代	12	10	22
④40代	7	10	17
⑤50代	5	6	11
⑥60代	0	0	0
計	32	27	59

タイ人



□女性 ■男性

日本人

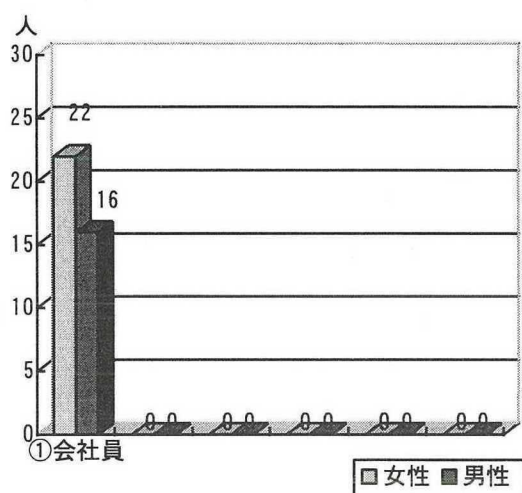


*職業（インタビュー）

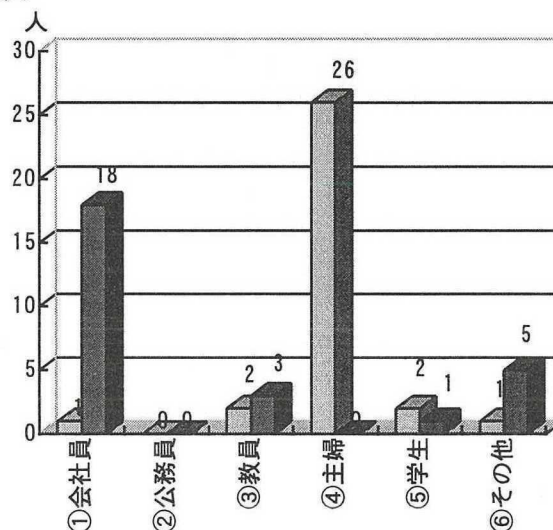
	女性	男性	計
①会社員	22	16	38
②公務員	0	0	0
③教員	0	0	0
④主婦	0	0	0
⑤学生	0	0	0
⑥その他	0	0	0
計	22	16	38

	女性	男性	計
①会社員	1	18	19
②公務員	0	0	0
③教員	2	3	5
④主婦	26	0	26
⑤学生	2	1	3
⑥その他	1	5	6
計	32	27	59

タイ人



日本人



9. デパートの店員とお客（インタビュー）

9-(1) この店員の対応の仕方について、どう思いますか。

	タイ人（人数）	日本人（人数）
よくあること、普通	30	6

（複数回答）

	タイ人（回答数）	日本人（回答数）
肯定的	37	21
否定的	4	129
その他	0	13

10. 交通事故

10-(1) このぶつけた人の対応の仕方について、どう思いますか。

	タイ人（人数）	日本人（人数）
よくあること、普通	99	4

（複数回答）

	タイ人（回答数）	日本人（回答数）
肯定的	22	6
否定的	3	87
中間的	0	3
その他	23	2

11. シンポジウムの依頼

11-(1) このシンポジウムの責任者の対応の仕方について、どう思いますか。

	タイ人（人数）	日本人（人数）
よくあること、普通	19	1

（複数回答）

	タイ人（回答数）	日本人（回答数）
肯定的	13	0
否定的	6	130
その他	34	3

インタビューの結果の分析

9-(1)から 11-(1)までのインタビューの結果をみると、総じて、タイ人による否定的な回答はきわめて少ない。一方、日本人の回答は、否定的な答えが圧倒的に多かった。また、興味深いのは、タイ人からは、「よくあること」「普通」という答えがたいへんに多かったことである。

タイ人と日本人とでは、まったく対照的な回答結果であったといえる。さらに、日本人からは、非常に多種多様な意見が出て、まとめようもない状態であった。いっぽう、タイ人のインタビューからは、タイ人一般の共通な見方が明瞭に浮かび出てきたといえる。

アンケートとインタビューの結果の比較

アンケートでは、タイ人と日本人の実例に対する見方の違いはそれほど大きくはなく、あたかも、日本人もタイ人もかなり共通な考えに基づいて言語行動をとらえ、それを重視しているかのような印象を与えられる。したがって、両者の間の相互理解を得るのはさほど困難ではないといった結論を出してしまいそうになる。

ところが、同じ実例についてのインタビューの結果とアンケートの結果とを比較すると、日本人、タイ人双方とも、アンケートの際には、それぞれの社会規範を意識した、比較的冷静で客観的な回答をする傾向がうかがわれるのに対し、インタビューの結果からは、日本人とタイ人とは、

相当、対立的でかみ合わない意見をもっていることが明らかになってくる。

つまり、日本人もタイ人も、アンケートでは、社会規範として理想的と評価されるべき行動様式を冷静に求めているかのような回答をする一方、インタビューでは、日本人はタイ人の言語行動を結局は十分には理解していないまま、日本人の評価基準でしかタイ人の言語行動を押し量ることができていないのではないかと考えさせる。さらに、タイ人のインタビューでの回答は、タイの社会で通用している典型的とも思える言語行動様式を素直に支持する結果となっている。

この結果を見る限りにおいては、日常的言語行動を調査して知るためには、アンケート結果のみによる分析は、多くの正しくない結論を導き出す恐れがあるのではないと思われる。かといって、インタビュー結果のみが信頼できるという結論にも疑問が残る。

この差が生じた背景を考えると、例えば、日本人が、「あなたは、道で顔見知りに出会ったら挨拶しますか」とたずねられれば、多くの人が「はい、します」と答えるが、実際には、めったに挨拶していない、という例を考えればわかるように、アンケートの場合には、比較的冷静に、その社会規範で理想とされる姿に近い自分自身を無意識につくりあげてしまい、それに従って、回答をする傾向があるのではないかと推論できる。また、いっぽう、インタビューにおいては、質問されたら、とっさに答えなければならず、非常に感情的、情緒的な主観が、ついつい、出てきがちになるし、さらに、それぞれの社会の文化的背景が、回答に比較的素直に反映されていると考えられる。

生きた人間の言語行動を調査し、分析する困難さは、このようなところにもあることを痛感させられた。

今後の研究の進め方

本調査研究を今後、進めるためには、さらにタイにおいて典型的なケースについて、より幅広く、深く調査する必要があるため、すでに実施したタイ人と日本人に対する別の角度からの意識調査のアンケートを、現在、回収中であり、今後、集計・分析を進める予定である。また、タイ人と日本人の間で、例えば「友達」とはどのような人をいうか、といった言葉の定義についての有無を調べるための調査も実施中で、併せて、集計・分析を進める予定である。そして、これらの調査結果を、一つの報告書にする予定である。

さらに、最終的には、従来の調査研究全体を総合的にまとめて、日・タイの言語行動が、文化、社会、価値観等をどのように反映しているか、また、コミュニケーション・ギャップを解消し、より相互理解をはかるために有効な手段と方法を見つける手がかりを探ってみるつもりである。